

演題名：地域枠・地域の医師確保に関する学生への調査結果及び考察

Survey results and discussion of students about Chiiki-Waku and securing of doctors in the community

演者名：有馬 大樹

所属機関名：全日本医学生自治会連合

所属機関名（英語）：Igakuren, Japan Association for Medical Students Societies

【目的】医学連には、地域枠学生に対する不十分な支援や管理の状況に関する学生の声が届いている。その背景には、学生への地域枠制度に関する不十分な説明や学生と都道府県など地域枠を運用している団体との間に制度に対する意識の隔たりがあると考えた。そのため、「地域枠・地域の医師確保に関する全国調査」を行い、地域枠や地域の医師偏在についての学生の意識や学生が地域枠の制度へ求めることについての調査を行った。

【方法】2019年12月～2020年3月の期間に、全国の医学生を対象に地域枠制度に関する意識調査を行った。アンケートは、紙媒体、Web上(Google form)にて収集した。

【結果】2020年2月25日現在、31大学医学部、医学生1892名から回答を得た。医師不足地域で働きたいと考える医学生や医師に対する支援に関しては、金銭的優遇を選択した学生が最も多かった。他には、充実した研修体制や社会福祉制度の充実、生活環境に対する補助や労働環境に対する優遇といった項目を選択する学生も多くみられた。また、回答した地域枠学生のうち、46.9%の学生が、地域枠として入学したことや地域枠学生として在学している今現在の状況や将来のことについて満足もしくはやや満足であると回答した。地域枠制度に関する説明の十分さに関しては、大学、高等学校、都道府県のいずれにおいても半数以上の学生が説明が不十分であると回答した。

【結論】本アンケートを通じて、多くの学生が地域枠制度に対し金銭的優遇の他にも労働環境に関する充実や生活環境に関する補助なども求めているということから、現行の地域枠制度と学生が求めている支援には隔りがあり、地域枠制度には学生の意見を取り入れていくべきであるということが示唆された。また、地域枠制度に関する説明に関しては、不十分であると感じている学生が多く、地域枠学生においても十分な制度の理解がなされないままに地域枠制度を利用しているということも示唆された。